

社会部会 研究の構想（案）

令和4年度～

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

現在、生徒を取りまく情勢は大きく急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、新型コロナウイルスの感染拡大や地球温暖化の進行等により、社会問題は一層複雑化し、危機対応は予断を許さない状況が続く。このような時代に続く不確定な未来を生き抜くために、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。そこで、社会科においては、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められている。

そのためには「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を提示し、社会的事象に関する基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得に努めることが必要である。また、習得した「知識及び技能」を活用し、主体的に課題を追究したり解決したりするための「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける必要がある。このような観点から、習得すべき「知識及び技能」の明確化を図るとともに、指導と評価の一体化に配慮した学習過程と評価方法、「思考力、判断力、表現力等」を育てるための教材開発や学習活動の工夫・改善を図っていく。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえ、地理的分野、歴史的分野、公民的分野を有機的に関連させながら、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。
- (2) 基礎的・基本的な「知識及び技能」を明確にし、指導と評価の一体化に配慮した学習過程や評価方法を用いることで、指導や学習の改善に生かす。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現により、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成する。

2 研究内容

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体の学習課題や基礎的・基本的な「知識及び技能」を明確にし、指導と評価の一体化を図る。内容のまとまり、あるいは単元ごとの指導と評価の計画を作成し、指導や学習の改善に生かす。また、S-P表等を活用した学力調査の分析結果についての情報を共有し、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。
- (3) 社会の変化に対応し、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するため、課題の設定や教材開発について、ICT機器等も活用して工夫・改善を図る。
- (4) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、「思考力、判断力、表現力等」を育てる学習活動の工夫・改善を図る。
- (5) 単元等、内容や時間のまとまりを見通した問いを設定し、各分野の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する学習を一層充実させる。

社会部会 令和4年度研究計画（案）

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

－教材開発や学習活動の工夫と指導と評価の一体化－

II 主題について

今日、新型コロナウイルスの感染拡大や地球温暖化の進行等により、社会問題は一層複雑化し、危機対応は予断を許さない状況が続く。社会科においては、このような時代に続く不確定な未来を生き抜くために、「社会的な見方・考え方」を働かせて問題を解決しようと、社会的事象を主体的に追究する生徒の育成がより一層求められる。そのためには、基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得させるとともに、「思考力・判断力・表現力等」を育み、主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養が必要である。

これらのことから習得すべき「知識及び技能」の明確化を図るとともに、指導と評価の一体化に配慮した学習過程と評価方法、「思考力、判断力、表現力等」を育てるための教材開発や学習活動の工夫・改善を図っていく。

そこで、本年度は、指導と評価の計画に単元の評価規準を設定し、生徒の学習状況を記録に残す場面（「評定に用いる評価」）、学習の過程で生徒の状況を確認することを通して学習改善につなげる場面（「学習改善につなげる評価」）を位置付けて、指導や学習の改善を行うとともに、単元を貫く課題（問い）の設定を工夫して、「社会的な見方・考え方」を働かせながら課題を追究したり解決したりできるようにすることで、主題の解明に迫りたい。

III 研究内容とその視点

1 指導計画の工夫

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を考慮し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 構造的な指導計画を作成するなど、単元全体で身に付けるべき基礎的・基本的な「知識及び技能」を明確にする。

2 指導と評価の一体化

- (1) 単元の内容やまとめを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。
- (2) S-P表等を活用した学力調査の分析結果について情報を共有し、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。

3 課題の設定や教材開発の工夫

- (1) 生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりすることができるように、各単元において単元を貫く課題（問い）の設定を工夫する。
- (2) 主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、社会的事象の特色や意味等について比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成するために、教材の開発やその構成を工夫する。

4 学習活動の工夫（見通しと振り返りの重視）

- (1) 各分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習を設計する。
- (2) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考ツールやICT機器等を生かし、「思考力、判断力、表現力等」を育てる学習活動を充実する。
 - ・複数の資料を分類、比較、関連付けて考えさせる学習活動を繰り返し行う。
 - ・課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できるよう学習活動の工夫を行う。
 - ・自分の考えを論理的に説明する力や自分の考えを再構成しながら議論する力を養うために、学習したことを活用する場面を設定し、生徒の表現を促す。

5 各分野における「社会的な見方・考え方」

「社会的な見方・考え方」は、資質・能力の育成全体に関わるものであり、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。

○…各分野の特質に応じた「見方・考え方」

◇…「思考力、判断力、表現力等」を育むための視点

<地理的分野>

- 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付き等の地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて考えさせる。
- ◇ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域等に着目して、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

<歴史的分野>

- 社会的事象を時期、推移等に着目して捉え、類似や差異等を明確にしたり、事象同士を因果関係等で関連付けたりして考えさせる。
- ◇ 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり等に着目して、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

<公民的分野>

- 社会的事象を政治、法、経済等に関わる多様な視点（概念や理論等）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論等と関連付けて考えさせる。
- ◇ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

Ⅳ 研究方法

- 1 実践に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえて、各郡市・地区の実情に応じて上記の研究内容とその視点を基に研究に取り組む。
- 2 各郡市・地区ごとに、授業を進める上での悩みや課題について、実践事例研究や講習会等を通して共通理解を図り、解決に努める。研究授業と研究発表に当たっては、研究内容とその視点を基に、各郡市・地区の実情に応じた研修（協議会、ワークショップ等）に努め、研究を深める。
- 3 学力調査の結果について、S-P表等を活用して指導と評価問題の改善に生かす。

